

## 7. スギ・トドマツ等の形態的特性による成長量の推定

### 1. 試験担当者

本場造林部遺伝育種第2研究室長 岡田幸郎 ほか

北海道支場育種研究室長 鮎島惇一郎 ほか

### 2. 試験目的

林木の幼苗期から伐期にいたるまでの成長経過を解析して、それぞれの樹種における成長型を分類し、それと関係する特長の把握によってその判定法を検討し、林木の成長に関する合理的な伐採法を究明するとともに、林業の近代化に伴なう経営の変化に応じた合目的種苗生産のための基礎資料を得る。

### 3. 昭和44年度の経過とえられた結果

下記のとおり材料を採取し、1部調査をおこなった。

#### 1. スギ

##### (1) 高知営林局魚梁瀬営林署管内

ヤナセスギ人工林(44年生)から林分調査して、ランダムに20本の個体を選び、伐倒して樹幹解析用円板と形態調査用試料を採取した。

##### (2) 熊本営林局菊池営林署管内

タモトオシ人工林について、1年生から20年生までの13林分からセナセスギと同じ方法によりそれぞれ10本ずつの個体を伐倒し、材料を採取した。

#### 2. トドマツ

##### 札幌営林局夕張営林署管内

200本の個体から形態調査用試料とザイモグラフ用試料採取し、調査を行なった。

#### 3. アカエゾマツ

##### 札幌営林局余市営林署管内

150本の個体から形態調査用試料を採取し、調査を行なった。

#### 4. 昭和45年度試験計画

特別会計技術開発費から除外されたため、一般経常研究に移し、前年に引き続き実施する。